東京アマデウス合唱団
第21回定期演奏会

=ドイツ・バロックの知られざる名曲=

Tokyo Amadeus Chorus

2002 10/13(日)
所沢市民文化センター
ミューズ・キューブホール

ご　挨　拶

今宵は、お忙しい中をご来場頂き、団員一同厚くお礼申し上げます。

東京アマデウス合唱団は１９８０年創立以来、モーツァルトのほかバロック・古典派の作品を中心にほぼ毎年１回の定期演奏会を行い、今回で２１回目の定期演奏会を迎えることとなりました。

何分にも１５名前後の人数で歌うため、プログラムの選曲には制約がありますが、本日は、ドイツ・バロック音楽の中でも皆様にあまり知られていない珍しい曲を選び、バロック音楽の初期から中期・後期と並べ、最後にＪ．Ｓ．Bachの三番目の息子のＪ．Ｃ．Ｆ．Bachの曲で終るプログラムを組んでみました。

今回はコンサート会場を、これまでの上野から場所を変えて所沢で開催する事となりましたが、毎回続けてご来場を頂いております方々や、遠くからわざわざご来場頂きました皆様方からの暖かいご支援に支えられ、少人数での演奏会を開催することができますことを、団員一同心から感謝いたしております。

団員の一人一人も精一杯の力を出し切って今回のコンサートを成功させたいと思っておりますが、ご来場の皆様方が、バロック音楽の雰囲気を味わう夜のひとときを過ごして頂ければ幸いと存じます。

暖かいご声援と共に演奏をゆっくりお楽しみ下さい。

２００２年１０月１３日

東京アマデウス合唱団

団　長　柿　沼　　晉

The Program

第１ステージ

1. Cantate Domino（新しい歌を主に向かって歌え）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Heinrich Schütz（1585-1672）

2. In dulci jubilo（嬉々たる歓呼のうちにさあみんな、歌え喜べ）・・・・・・・・・・・・・・・・・
Dietrich Buxtehude（1637-1707）

3. Befiehl dem Engel, daß er komm（御使いに命じてください、来て私たちを守ってくださいと）
Dietrich Buxtehude（1637-1707）

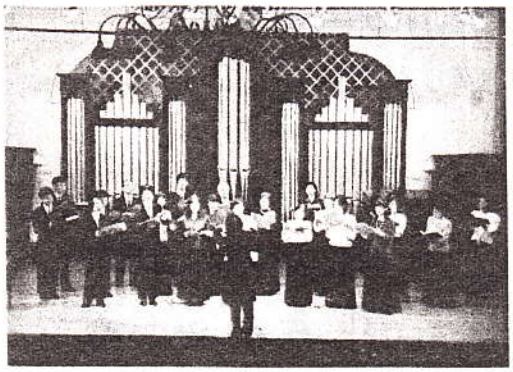
4. 117. Psalm（詩編 117番）・・・
Georg Philipp Telemann（1681-1767）

----- 休　憩（１５分）　-----

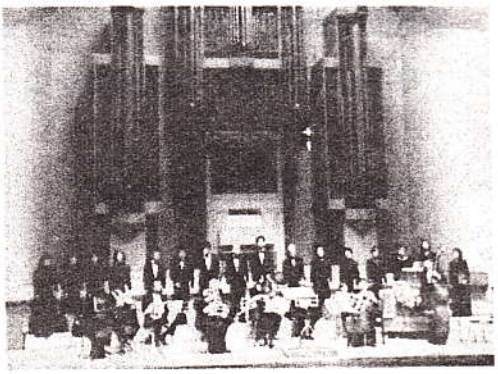
第２ステージ

5. Magnificat（マニフィカート）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
Johann Pachelbel（1653-1706）

6. Wachet auf, ruft uns die Stimme（目を覚ませ、と見張りの声が呼ぶ）・・・・・
Johann Christoph Friedrich Bach（1732-1795）



クリスマスコンサート　2000.12　上野奏楽堂



第20回定演 2001.11 上野 石橋メモリアルホール

PROFILE

指揮　水野克彦

東京芸術大学卒業。ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。幼少よりピアノの手ほどきを受け、合唱の伴奏経験を通して、次第に合唱曲や宗教曲の分野への興味が芽生える。芸大在学中はクラリネットを専攻し、芸大九十周年記念演奏会の室内楽奏者に選ばれる。卒業後はオーケストラ、室内合奏などの演奏の他、ソロリサイタルも度々行う。しかし、その間も合唱曲や宗教曲への興味は衰えず、芸大バッハ・カンタータ・クラブに在籍し、小林道夫氏の薫陶の下に主にバッハの宗教曲作品を研究すると共に、オルガン演奏の研鑽も積む。次第に宗教曲や古い鍵盤音楽の演奏が多くなり、現在は指揮、オルガン、通奏低音による宗教曲作品演奏の他、声楽家や器楽演奏者とのアンサンブル、作曲と幅広く活動。日本オルガニスト協会会員。

伴奏（Symphonia Fons Harmoniaeのメンバー）

第1ヴァイオリン　海保あけみ

東京芸術大学卒業。ヴァイオリンを正岡紘子、山岡耕筰、日高毅の各氏に、室内楽を黒沼俊夫氏に師事。又、芸大バッハカンタータクラブにて小林道夫氏の指導を受ける。現在フリーの演奏家として室内楽・オーケストラ等の演奏を中心に活動中。

第2ヴァイオリン　片桐恵里

東京芸術大学卒業。同大学院修了。ヴァイオリンを掛谷洋三氏、浦川宜也氏、室内楽をルイ・グレーラー氏、ピュイグ・ロジェ女史の各氏に師事。第４回埼玉県新人演奏会に出演。東京ハルモニア室内オーケストラのメンバー。

チェロ　牧野ルル子

東京芸術大学、同大学院修了。ＮＨＫ毎日音楽コンクール入選。西独ケルン音楽院に留学。帰国後渡米、プロムジカ・チェンバーオーケストラに５年間在籍。山川郁子、倉田澄子、堀江泰氏、ボリス・ペルガメンシチコフの各氏に師事。

オルガン　辰巳美納子

東京芸術大学卒業。同大学院修了。アムステルダム音楽院卒業。第５回古楽コンクール最高位、第３回栃木「蔵の街」音楽祭受賞。ソリスト、通奏低音奏者として多くの演奏会やＮＨＫ－ＦＭに出演する等幅広く活躍、好評を博している。

練習ピアニスト

堀江和子

武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。同研究科程修了。ピアノを水本雄三、野村文子、オルガンを高橋靖子の各氏に師事。現在、茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者。日本オルガン研究会会員。

東京アマデウス合唱団

Sop　辻村順子・村松あおい・山形明子
Alt　伊藤正子・大久保ルミ子・大友美佐
　　加藤尚子・重泉秀子・宮崎米子
Ten　小沢　仁・片岡　繁
Bas　柿沼　晢・野口　碩

今回の演奏曲目について

この演奏会で取り上げる曲は、全てドイツ・バロック音楽の珍しい作品ばかりです。

◇最初はHeinrich Schütz(1585.10-1672.11)が、ザクセン選帝侯Johann Georg1世の宮廷楽長に就任して８年後の1625年に皇帝の顧問官Johann Ulrich von Eggenbergに献上したモテット集《Cantiones sacrae》(op4 合唱聖歌集)のなかに含まれている**1．Cantate Domino canticum novum**(SWV81)を取り上げます。
バロック音楽の様式史の上限を1600年頃とすれば、150年に及ぶその歴史の中で、この曲は初期に位置しています。歌詞は詩編149:1~3を採用しておりますが、ラテン語訳のテクストを使っていながら、カトリックの典礼聖歌では使われないテクストである点に、先ずこのプロテスタント教会音楽家の「新しい歌」に取り組む姿勢が表れています。曲全体はテクストに沿って表現に富む旋律が置かれ、どの声部もそれをほぼ崩すことなく、フーガというよりはエコーのように繰り返すことによって、余韻をつくりながら展開する形式に成っています。その旋律のずらしが対位法を生み出し、みごとな響きの深さをもたらして居る点が、普通のポリフォニックな合唱曲のスタイルと違うところでしょう。バロック音楽の最も基本的な構成として通奏低音だけで演奏されます。

◇次に演奏されるDietrich Buxtehude(1637頃-1707.5)のカンタータ２曲はバロック音楽史の中期に属するもので、いずれもその特徴を示す通奏低音を有しながら、弦楽と合唱とのコンチェルタント様式で書かれています。
2．In dulci jubilo(BUXWV52)は、天使がドミニコ会修道士Heinrich Seuse(Suso)に教えたと言い伝えられた14世紀頃から普及していたラテン語のキャロルの歌詞をドイツ語の混合したものに改めて、コラールとしてプロテスタント教会で使われ始めていた曲を３声合唱に編曲したもので、歌詞は言語の違いに関係なく歌い進められます。原曲のドイツ語とラテン語の混じるテクスト例としてはまだ過渡期のものですが、現在ルター派の教会で1646年から歌われている完全ドイツ語版《Nun singet und seid froh》の骨格は、ラテン語の部分や措辞の違いを除いてもやはりかなり整っていると言えます。Buxtehudeの編曲はオルガン変奏曲を想わせるように、コラールの旋律を崩しながら対位法的手法を駆使してポリフォニックに纏めたもので、これとコンチェルタントを形成する弦楽器（ヴァイオリンⅠ、Ⅱ）は伴奏ではなく、合奏的な役割を通奏低音とともに務めます。歌詞のなかでキリストが「アルファであり、オメガーであられる

お方」と歌われるのは、ヨハネの黙示録1:8を引用して、初めに居られて万物の創造者となり、それを完成させ、やがて終わりのときに来られる方という意味です。Buxtehudeが Lübeckの Marien Kircheで行った有名なAbendmusikでこの曲が初演された可能性も考えられるかも知れません。

3. Befiel dem Engel, daß er komm (BUXWV10)は、André Pilloの指摘によれば、Lübeckにおける大天使ミカエルの祝日(9月29日--ルター派教会暦)のためのカンタータとして作曲されたと断定することがほぼ可能とされています。この説に従えば、歌詞の冒頭で語られる〈Engel〉はミカエルを指すことに成ります。この説が有力視される根拠は、ヨハネ黙示録12:7-12では、ミカエルがサタンの勢力と戦う天使の軍勢の将軍の立場にあり、更にヨシュア記5:13では、ヨシュアがエリコの近くで「主の軍の将軍」と名乗る男に出合い、「わが主は、この僕に何をお言いつけになるのですか」と言う場面が語られ、また詩編34:8には「主の使いはその周りに陣を敷き、主を畏れる人を守り助けてくださった」とあって、ミカエルの祝日の礼拝ではこれら歌詞の内容と関係の深い聖書の箇所が全て朗読されるからです。この曲も、弦楽器（ヴァイオリンⅠ、Ⅱとヴィオローネ）と通奏低音が、序奏に続いて４声合唱とコンチェルタントのパートナーの役を受け持つように構成されています。旋律と歌詞の基礎になっているのは、晩課に歌われるルター派のコラール《Christe, du bist der helle Tag》です。

◇バロックと古典派の結節点に位置するGeorg Philipp Telemann(1681.3-1767.6)は、宗教音楽の単純化、市民性の追求に新しい可能性を求めました。

4. 117. Psalm（詩編第117篇）は、Telemannが1758年に作曲した作品で、時代は古典派の抬頭がすでに始まっておりました。この時彼は七十七歳の高齢でしたから、Hamburgの五つの主要な教会の音楽監督を引き受けていたものの、八十歳を越える頃には歩行困難に陥り、視力が衰え、長い緊張を楽譜を書くことに注ぐのが難しかったと言いますから、この曲はその作曲活動の最後の時期に属する、バロック時代の通奏低音、コンチェルタント様式（弦楽器はヴァイオリンⅠ、Ⅱ）を依然保存した作品ということになります。彼が宗教音楽に求めた教会の実用に耐える単純性と市民性の追求は、この作品の合唱部分にも反映し、前半ヴィヴァーチェのスキップするようなリズムによる賛美する市民の躍動的な喜びの表し方、ラルゴによる「ヤーヴェの慈しみとまことは私達を超えて力強いみわざ」と歌われるポリフォニックな和声の端正な運び方、ハレルヤ唱の単純な展開にその特徴が認められます。その単純さが却って新鮮に映るのは、器楽との高度の絶妙な絡み方に起因しているのでしょう。

◇Buxtehudeが17世紀後半の北ドイツのオルガン音楽を代表するとすれば、NürnbergのSt.Sebaldus Kircheに晩年奉職したJohann Pachelbel(1653.9洗-1706.3)は、南ドイツのオルガン音楽を代表する存在でしたが、鍵盤音楽に比べて宗教音楽はあまり知られていません。

5．Magnificatは、PachelbelがSt.Sebaldus Kircheの晩課のために作曲した、少なくとも13曲の現存が確認されているMagnificatのうちの、４声合唱に通奏低音だけが付いたニ長調の曲で、自筆譜のタイトルは「４人または12人のソプラノ、アルト、テノール、バスのための随意に４つの弦楽器を伴った、または４声のソロとチェンバロのためのMagnificat」とあり、今回はタイトル中の後者のスタイルによって、通奏低音をオルガンで演奏します。歌詞はカトリックの典礼聖歌のマリア賛歌を忠実に歌いますが、歌詞の進行に従ってグレゴリオ聖歌の旋律を基礎にしながら、数段階に展開を変えた構成になっていて、プレストで演奏される《Fecit potentiam……》の部分でソプラノがややゆるやかなテンポで歌うのが、原曲聖歌の旋律です。

◇**6．Wachet auf,ruft uns die Stimme**は、Johann Sebastian BachとAnna Magdalenaの間に生まれた三番目の息子Johann Christoph Friedrich Bach(1732.6-1795.1)が、1750年初頭からBückeburgのWilhelm von Schaumburg Lippen伯爵の宮廷に奉職するようになり、七年戦争後伯爵がMarie Barbaraと結婚して(1765)プロテスタントの礼拝が宮廷で行われるようになった時代に、楽師長の立場で作曲した元来は無伴奏の４声モテットです。ルター派教会暦最後の主日(毎年11月末)に歌われるPhilipp Nicolai作(1599年)のコラールの旋律を基礎にして作曲したもので、恐らく初演の用途も同じであったと考えられます。楽章は３節ある原曲の歌詞を忠実に使い、各節ごとに特色のあるスタイルに纏められています。J.S.Bachが1731年11月25日に初演したカンタータ第140番にこの原曲が使われていることはよく知られていますが、父の作品がレチタティーボとアリアを多用したのに対し、この作品は器楽とのコンチェルタント様式も廃して徹底的に全ての機能を合唱にゆだねています。しかし、チェンバロ奏者であったこの作曲者は、持ち前の鍵盤音楽の感覚でバスのパートに通奏低音の役割を持たせて上３声に合奏をさせたり、上２声と下２声で合奏させたり、ソプラノに主題の旋律を歌わせて下３声で合奏させたりする独創的な手法を選んでいて、そのようにして通奏低音もコンチェルタント様式も合唱の中に内蔵させてしまった、ユニークなバロック音楽です。この作曲者も晩年には、Johann Christian Bachの影響もあってMozartやGluckに傾倒し、古典派の仲間入りをしました。J.S.Bach没後バロック音楽の時代が終わりを告げるに至った軌跡を示す一例です。　　（文責　野口　碩）

§演奏曲目歌詞対訳§

第1部

1. Cantate Domino canticum novum SWV81

ハインリッヒ・シュッツ 1625年作Cantiones sacrae〈聖歌集〉第9巻
「通奏低音付4声ラテン語モテット集」より

Cantate Domino canticum novum,	新しい歌を主に向かって歌え、
laus ejus in ecclesia sanctorum.	聖なる集いで、そのお方の賛美の歌を。
Laetetur Israel in eo qui fecit eum,	イスラエルは彼らを創造されたそのお方に喜び、
et filiae Sion exultent in rege suo.	シオンの子らは彼らの王に喜び踊るだろう。
Laudent nomen ejus in tympano et choro,	御名を太鼓と踊りで賛美するだろう、
in psalterio psallant.	奏でる琴に合わせて。

(詩編149:1~3を改編)

2. In dulci jubilo(降誕節用カンタータ) BUXWV52

ディートリヒ・ブクステフーデ 作曲年未詳

1.	
In dulci jubilo	嬉々たる歓呼のうちに(ラテン語)
nun singet und seid froh!	さあみんな、歌え、喜べ。
Unsers Herzens Wonne liegt	私達の心の至福の喜びの的は(ドイツ語)
in praesepio	まぐさ桶の中に寝て、(ラテン語)
und leuchtet als die Sonne	太陽のように輝いておられる、(ドイツ語)
matris in gremio.	御母の懐で。(ラテン語)
Alpha es et O.	アルファにしてオメガーであられるお方。(ラテン語)
2.	
O Jesu parvule,	ああ、幼いイエスさま、(ラテン語)
nach dir ist mir so weh:	貴方が居られないと、私はとても悲しいです。
Tröst mir mein Gemüte,	私の思いを慰めてください、(ドイツ語)
o puer optime,	ああ、最高のすばらしい御子よ、(ラテン語)
durch alle deine Güte,	貴方のお優しい心尽くしによって、(ドイツ語)
o princeps gloriae!	ああ、栄光の支配者よ。
Trahe me post te!	貴方のみあとに私をお連れください。(ラテン語)
3.	
O patris caritas,	ああ、御父の御慈悲を、
o nati lenitas!	ああ、御子の平安を！(ラテン語)
Wir wären all verloren	私達はすべてを失ってしまいました、(ドイツ語)
per nostra crimina,	自分達の罪によって、(ラテン語)
so hat er uns erworben	だから、御子は私達のために(ドイツ語)
coelorum gaudia.	天の喜びを手に入れてくださったのです。(ラテン語)
Eia,wärn wir da!	さあ、私達はそこにいるのです！
4.	
Ubi sunt gaudia?	どこにそんな喜びがあるでしょうか？(ラテン語)
Nirgend mehr denn da,	そこ以外のどこにもありません、
da die Engel singen	そこでは、御使いが(ドイツ語)
nova cantica	新しい歌をうたい、(ラテン語)
und die Schellen klingen	鐘が鳴っています、(ドイツ語)
in regis curia.	王の裁きの庭で。(ラテン語)
Eia,wärn wir da,	さあ、私達はそこにいるのです、
eia,wärn wir da,da,da,da,	さあ、そこ、そこ、そこ、そこです、
eia,wärn wir da!	さあ、そこですよ！

(14世紀のラテン語聖歌を一部ドイツ語に改めた歌詞)

3. Befiehl dem Engel, daß er komm BUXWV10

（大天使ミカエルの祝日用カンタータ）

ディートリヒ・ブクステフーデ 作曲年未詳

Befiehl dem Engel, daß er komm,
und uns bewach, dein Eigentum,
gib uns die lieben Wächter zu,
daß wir vorm Satan haben Ruh.

御使いに来て、私達を守ってくださるように
命じてください、私達は貴方のものですから、
私達にすばらしい見張り役を付けてください、
私達がサタン(悪魔)に悩まされないように。

So schlafen wir im Namen dein,
dieweil die Engel bei uns sein.
Du heilige Dreifaltigkeit,
wir loben dich in Ewigkeit.

それでこそ、私達は御名によって眠りに就きます、
御使いが私達のそばに居てくださるのですから。
貴方は聖なる三位一体の御方ですから、
とこしえに私達はあなたをほめたたえます。

Amen.

アーメン(真実に)。

4. 117Psalm〈詩編第117篇〉

ゲオルグ・フィリップ・テレマン 1758年作曲。

Laudate Jehovam omnes gentes!
Laudibus efferte, omnes populi.
Quia valida facta est super nos
misericordia ejus et veritas Jehovae
in aeternum.

すべての異邦人達よ、ヤーヴェをほめたたえよ！
すべての民よ、讃美を高らかに歌え。
その故は、ヤーヴェの慈しみとまことは
私達を超えて力強いみわざだからです、
とこしえに。

Halleluja!

ハレルヤ（ヤーヴェをたたえる叫び）！

第二部

5. Magnificat

ヨーハン・パッヘルベル 作曲年未詳

Magnificat anima mea, Dominum,
et exsultavit spiritus meus
in Deo salutari meo.
Quia respexit humilitatem ancillae suae;

私の魂は主をあがめ、
私の霊は喜び踊りました、
私の救いの神によって。
卑しめられていた御自分のはしためにも、
み心を留めて下さったからです。

ecce enim ex hoc
beatam me dicent omnes generationes.

ご覧なさい、私がこう言うのは、これから後
いつの世代の人も私を祝福された者と言うから
です。

Quia fecit mihi magna, qui potens est;
et sanctum nomen ejus.
Et misericordia ejus
a progenie in progenies timentibus eum.
Fecit potentiam in brachio suo,
dispersit superbos mente cordis sui.

力ある方が、私に偉大な事をなさるからです。
そして、その方の御名はなんと尊いのでしょう。
また、その方の憐れみは
子孫から子孫へ彼を畏れる者達に及ぶでしょう。
(その方は)その腕で権能を揮い、
その心の知性によって高ぶる者達を散らされま
した。

Deposuit potentes de sede,
et exaltavit humiles.
Esurientes implevit bonis,
et divites dimisit inanes.
Suscepit Israel puerum suum,
recordatus misericordiae suae.
Sicut locutus est ad patres nostros,
Abraham et semini ejus in saecula.

権力のある者達をその座から降ろし、
取るに足らない者達を高く上げられました。
飢えている者達を良い物で満たし、
富める者達を手ぶらで追い返されました。
御自分の僕イスラエルを受け入れて、
その憐れみを御意に留めてくださいました。
私達の先祖に語られたように、
アブラハムとその子孫にとこしえに(そのようにしてくださいます)。

(以上ルカ1:47-55のマリアの賛歌による歌詞)

Gloria Patri,gloria Filio	御父に栄光、御子に栄光、
et Spiritui Sancto.	そして御聖霊にも。
Sicut erat in principio et nunc et semper	初めにそうであったように、今もいつの時も
et in saecula saeclorum.	そしていつの世までも。
Amen.	アーメン(真実にそうありますように)。

6. Wachet auf, ruft uns die Stimme

ヨーハン・クリストフ・フリードリヒ・バッハ　作曲年未詳

1.

Wachet auf,ruft uns die Stimme der Wächter	「お前達目を覚ませ」と見張りの声が叫ぶ、
sehr hoch auf der Zinne,	(エルサレムの)城の尖塔のずっと高い所で。
wach auf,du Stadt Jerusalem!	「はやく目を覚ませ、エルサレムの都！」
Mitternacht heißt diese Stunde,	この時間は真夜中だというのに、
sie rufen uns mit hellem Munde:	彼らは私達を朗々とした口調で呼ばわっている。
Wo seid ihr klugen Jungfrauen?	「どこに居るのか、賢いおとめ達は？
Steht auf,der Bräutgam kömmt!	床を離れよ、花婿が来るのだ！
Steht auf,die Lampen nehmt!	床を離れよ、明かりを取れ！
Halleluja!	ハレルヤ！
Macht euch bereit zu der Hochzeit,	婚礼の準備をしろ、
ihr müsset ihm entgegengehn!	花婿をお迎えしなければならないのだ！」
Wachet auf,die Stimme der Wächter rufet uns,	「お前達目を覚ませ」と見張りの声が叫ぶ、
wachet auf,wachet auf,	「はやく覚ませ、はやく覚ませ、
du Stadt Jerusalem,	エルサレムの都、
wach auf,wach auf!	はやく、はやく！」

2.

Zion hört die Wächter singen,	シオンは見張り達の歌うのを聞いて、
das Herz tut ihr für Freuden springen,	心を喜びで躍らせ、
sie wachet und steht eilend auf.	目を覚まして、急いで床を離れる。
Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig,	彼女達の郎君がすばらしい天から
von Gnaden stark,von Wahrheit mächtig,	大きな慈悲と巨大な真理によって来られる、
ihr Licht wird hell,ihr Stern geht auf.	彼女達の明かりが灯り、彼女達の星が昇る。
Nun komm,du werte Kron,	さあ、おいで下さい、あなたは王位に相応しい、
Herr Jesu,Gottes Sohn! Hosianna!	神の御子、イエスさま！ホサナ(万歳)！
Wir folgen all zum Freudensaal	私達はみな、あとを追って婚礼の広間に向かい、
und halten mit das Abendmahl.	晩餐を共にします。

3.

Gloria,Gloria,Gloria,	御栄えあれ、御栄えあれ、御栄えあれ、
Gloria sei dir gesungen,	御栄えが歌われよ、
Gloria,Gloria,Gloria,	御栄えあれ、御栄えあれ、御栄えあれ、
Gloria sei dir gesungen.	御栄えが歌われよ。
Gloria sei dir gesungen	御栄えが歌われよ。
mit Menschen- und englischen Zungen,	人々の舌と天使の舌をもって、
mit Harfen und mit Zimbeln schön.	美しいハープと小さなシンバルの響きをもって。
Von zwölf Perlen sind die Pforten	あなたの都の門は十二の真珠で
an deiner Stadt;wir sind Konsorten	飾られています。私達は今高い所で
der Engel hoch um deinen Thron.	御座の周りの御使いの群の中にいます。
Kein Aug hat je gespürt,	いかなる眼も覚えたことがありません、
kein Ohr hat je gehört solche Freude.	いかなる耳もかって聞いたことがありません、
	こんな嬉しい光景は。
Des sind wir froh,(io,io,)	私達はその嬉しさのあまり、〔ウァー、ウァー〕
ewig in (dulci) jubilo.	いつまでも続く〔嬉々たる〕歓呼のうちに。

(Philipp Nicolai作のコラールの歌詞を僅かに改めたもの)

(文責　野口　碩)

東京アマデウス合唱団のご案内

（平成１４年１０月現在）

今回ご来場の皆様方の中には、すでにご存知の方々も多いかと思いますが、東京アマデウス合唱団を初めてお聴きになる方々のために、若干のご案内をさせて頂きたいと思います。

東京アマデウス合唱団は、１９８０年に「モーツァルトのレクイエム」を自分達の手で演奏したいという夢を持つ、アマチュアの仲間達が集まって創立しました。

以来、モーツァルトのほか古典派の作品を中心とした宗教曲を、ほぼ毎年１回の定期演奏会で演奏してまいりました。

今年で２２周年を迎えましたが、その間に演奏した曲の主なものを後のページに掲載しておりますのでご一読下さい。

この合唱団は、指導者の招聘・指揮者の選定・会場設定・演奏会の曲目選定・プログラム印刷・演奏する曲目の解説から訳詞に至るまで全てが団員の労力と団員だけの資金で成り立っており、手作りの演奏会を開催するユニークな合唱団としての存在価値を、団員一同が誇りとしております。

創立当初は６８名いた団員も現在は１５名程度になりましたが、なんとか存続させたいという団員の強い意志に支えられて、現在に至っております。

今後の活動予定は次ページの通りですが、一緒に唄ってみたい方や興味のある方がおられましたら、是非とも練習会場にお出かけ頂いて練習状況をご覧頂きたい（見学大歓迎）と願っております。

次ページ及び下記ホームページをご参照の上、是非ご来場頂きたく団員一同心からお待ちしております。

［ホームページ］

ｈｔｔｐ：／／ｆｐｓ０１．ｐｌａｌａ．ｏｒ．ｊｐ／~AMADEUS／

今後の活動予定

２００３年秋

第２２回定期演奏会　　会場　ルーテル市ケ谷センターを予定

主な演奏曲目　「ラインベルガーの夕べ」として、

「スタバト・マーテル」「５つの賛歌」等ラインベルガーの曲を

メインに、パイプオルガンでの伴奏も計画しています。

２００４年秋

第２３回定期演奏会　　会場　石橋メモリアルホールを予定

主な演奏曲目　バッハのカンタータを検討中

（参加・見学ご希望の方へ）

お問い合わせ先　　辻 村 順 子　０４８－４７６－４０５６

大久保ルミ子　０３－３９６０－７７１４

○毎週水曜日　午後６時３０分～９時

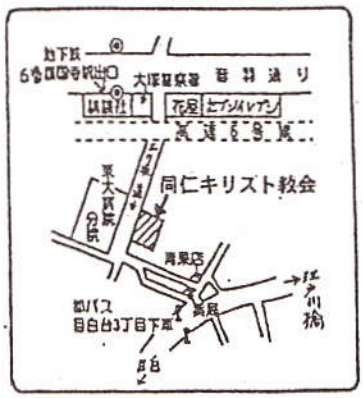
○練習会場　　同仁キリスト教会美登里幼稚園２Ｆ

○指 導 者　　水 野 克 彦

○会　　費　　月額 4,000円（学生2,000円）

練習場所案内図

同仁キリスト教会



住　所
文京区目白台３－１０－９

○地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車・6番出口から徒歩5分

又は

○ＪＲ山手線　「目白」駅下車・駅前から

都バス「椿山荘」行き・又は「新宿西口」行きに乗車

「目白台三丁目」下車・徒歩5分

東京アマデウス合唱団演奏会記録

	開催年月	場所	主な演奏曲目	指揮者
第1回	81. 2	石橋メモリアルホール	モーツァルト(レクイエム)ジュスマイヤー版	寺村博司
第2回	81.11	中央会館大ホール	ヘンデル(メサイア)	渡邊央己
第3回	82.11	東京カテドラル大聖堂	フォーレ(レクイエム)	黒岩英臣
第4回	83. 9	東京カテドラル大聖堂	モーツァルト(戴冠式ミサ)	黒岩英臣
第5回	84. 9	東京カテドラル大聖堂	モーツァルト(レクイエム)ジュスマイヤー版	黒岩英臣
第6回	85.10	石橋メモリアルホール	バッハ(カンタータ 106)	宮本昭嘉
第7回	86.10	練馬文化センター	モーツァルト(グロッセ・ミサ)	鈴木 優
第8回	87.10	石橋メモリアルホール	シュッツ(ムジカリッシェ・エクゼクイエン)	鈴木 優
第9回	88.12	駒場エミナース	モーツァルト(ヴェスペレ)	齋藤明生
第10回	89.11	練馬文化センター	モーツァルト(レクイエム)バイヤー版	齋藤明生
第11回	91. 2	石橋メモリアルホール	モーツァルト(リタニア)	齋藤明生
第12回	91.11	川口リリアホール	モーツァルト(ドミニクス・ミサ)	齋藤明生
第13回	92.11	石橋メモリアルホール	シャルパンティエ(真夜中のミサ)	齋藤明生
第14回	93.11	石橋メモリアルホール	モーツァルト(ミサ・ブレヴィス 275)	齋藤明生
15周年記念	94.11	新宿文化センター	モーツァルト(レクイエム)ドルース版--渋谷混声と合同	齋藤明生
第15回	95.10	石橋メモリアルホール	バッハ(カンタータ 182)	齋藤明生
第16回	96.11	石橋メモリアルホール	モーツァルト(ヴェスペレ)	齋藤明生
第17回	97.10	石橋メモリアルホール	モーツァルト(ミサ・ソレムニス)	齋藤明生
第18回	98.10	石橋メモリアルホール	バッハ(カンタータ 61)	齋藤明生
第19回	99.10	石橋メモリアルホール	ラインベルガー(スタバト・マーテル)	齋藤明生
齋藤先生追悼	00. 7	同仁キリスト教会	ハスラー&メンデルスゾーン等	水野克彦
クリスマス	00.12	上野奏楽堂	四つのアヴェマリア等	水野克彦
第20回	01.11	石橋メモリアルホール	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)	水野克彦
第21回	02.10	所沢文化センター	ドイツ・バロック(J.C.F.Bach等)	水野克彦

東京アマデウス合唱団のモーツァルト演奏記録

作品番号	演奏回数	曲　　名
KV. 66	1回	Missa in C(Dominicus Messe)
KV. 72(74f)	3回	Inter natos mulierum
KV. 85(73S)	1回	Miserere
KV.109(74a)	1回	Litaniae Lauretanae
KV.140	1回	Missa Brevis in G
KV.141(66b)	2回	Te Deum laudamus
KV.167	1回	Missa in C(Trinitatis Messe)
KV.194	1回	Missa Brevis in D
KV.220	1回	Missa Brevis (雀のミサ)
KV.222(205a)	4回	Misericordias Domini
KV.243	1回	Litaniae de venerabili altaris
KV.273	4回	Sancta Maria,mater Dei
KV.275(272b)	1回	Missa brevis in B
KV.277(272a)	1回	Alma Dei creatoris
KV.317	1回	Krönungs Messe(戴冠式ミサ)
KV.337	1回	Missa solemnis in C
KV.339	2回	Vesperae solemnes de Confessor
KV.341	1回	Kyrie in d-moll
KV.427	1回	Grosse Messe in c-moll
KV.618	2回	Ave verum corpus
KV.626	2回	Requiem(ジュスマイヤー版)
	1回	Requiem(バイヤー版)
	1回	Requiem(ドルース版)

1981 February	**Mozart**	**:RÈQUIEM**
1981 November	**Händel**	**:MESSIAH**
1982 November	**Fauré**	**:RÈQUIEM**
1983 September	**Mozart**	**:KRÖNUNGS MESSE**
1984 September	**Mozart**	**:RÈQUIEM**
1985 October	**Bach**	**:KANTATE Nr.106**
1986 October	**Mozart**	**:GROSSE MESSE**
1987 October	**Schütz**	**:MUSIKALISCHE EXEQUIEN**
1988 December	**Mozart**	**:VESPERAE**
1989 November	**Mozart**	**:RÈQUIEM**
1991 February	**Mozart**	**:LITANIAE**
1991 November	**Mozart**	**:DOMINICUS MESSE**
1992 Nov.	**Charpentier**	**:MESSE DE MINUIT POUR NÖEL**
1993 November	**Mozart**	**:MISSA BREVIS**
1994 November	**Mozart**	**:RÈQUIEM** (JOINT CONCERT)
1995 October	**Bach**	**:KANTATE Nr.182**
1996 November	**Mozart**	**:VESPERAE**
1997 October	**Mozart**	**:MISSA SOLEMNIS**
1998 October	**Bach**	**:KANTATE Nr.61**
1999 Oct.	**Rheinberger**	**:STABAT MATER**
2001 November	**Mozart**	**:TRINITATIS MESSE**
2002 Oct.	**J. C. F. Bach**	**:WACHET AUF, RUFT UNS DIE STIMME**